

I 2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応

<p><b>【2015 年度大学評価結果総評】</b></p> <p>・該当なし</p>
<p><b>【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</b>（～400 字程度まで）</p> <p>・該当なし</p>

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

**【2016 年 5 月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。								
①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	はい <input type="checkbox"/> いいえ						
<p><b>【執行部の構成、インスティテュート内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・「連帯社会インスティテュート運営委員会」運営委員長・山岸秀雄（NPO プログラム担当）、中村圭介（労働組合プログラム担当）、栗本昭（協同組合プログラム担当）。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>								
1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。								
①研究科（専攻）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	はい <input type="checkbox"/> いいえ						
<p>（～400 字程度まで） ※カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p>「NPO プログラム」「労働組合プログラム」「協同組合プログラム」の 3 つのプログラムで構成されています。これらのプログラムが互いに連携し、「新しい公共」の担い手となる人材を育成しています。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>								
2015 年度研究指導教員数一覧（専任）（2015 年 5 月 1 日現在）								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>研究科・専攻 ・課程</th> <th>研究指導 教員数</th> <th>うち教授数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修士</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	修士	3	3		
研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数						
修士	3	3						
研究指導教員 1 人あたりの学生数：4 人								
1.3 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。								
①研究科（専攻）等内の F D 活動は行われていますか。	<input type="checkbox"/>	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C						
<p><b>【FD 活動を行うための体制】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・当インスティテュートは発足したばかりで、学生数も少ないため、一般的な FD 活動になじまないため、独自の方法との両面から FD 活動を実施している。</p> <p><b>【2015 年度の F D 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>								

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・インスティテュートの学生数が少ないため、学生評価者が特定できる可能性があるため、アンケートに向かない科目があるが、それを補う形の評価方法を試みている。

**【この基準の大学評価】**

連帯社会インスティテュート全体では、カリキュラムに適切な教員組織が備えられていると評価できる。また、FD活動において、一般的活動に加えて、授業改善のための独自アンケートを実施し、その結果を担当教員に回覧し、共有されている。

**2 教育課程・教育内容**

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

<b>【教育課程の編成・実施方針】</b>	
NPO・社会的企業研究、協同組合研究、労働組合研究の3つのプログラムを柱として、受講生の研究志向に応じた履修モデルを提示し、幅広い専門科目から受講科目を選択する際の一助とする。	
2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	A B C
(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 本インスティテュートは、理論と実践の組み合わせによって、研究教育の成果を上げるものとして設定しているが、さらに効果を獲得するために、多摩地区の産官学民プラットフォームの現場学習を実施し、日野市、NPO、生協、労組、法政大学をそれぞれ訪問し、地域連帯の実態調査、研究を行った。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい いいえ
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・該当なし(博士後期課程の設置なし)	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	A B C
(200～400字程度) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 ・該当なし(博士後期課程の設置なし)	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
①専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	A B C
(～400字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 3 プログラムの専門性の基礎を相互に理解し理論の幅が広がるようにしている。さらに理論と実践が結合するように、毎週、その世界で最高水準にいる方々を招いて研修している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	A B C
(～400字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。 海外からの留学生には、語学力の向上について厳しく指導し、研究テーマについては日本の最高レベルの研究者、実践家を紹介、講義を依頼して、レベルの高い研究、論文作成に至るように細かく配慮した指導を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし
-------

【この基準の大学評価】

<p>連帯社会インスティテュートでは地域と連携した研究フィールドをもち、リサーチワークを実施している点は、評価できる。</p> <p>また、学内教員と実務家とによるオムニバス科目「連帯社会とサードセクター」では、全学生が3つのプログラム(NPO、労働組合、共同組合)の主体について学ぶこととなっている。そこには、現場の視察(スタディ・ツアー等)も含まれるが、別プログラムの学生にとっては、他プログラムの内容を学ぶことは、視野が確実に広がる機会である。</p> <p>そして、3つのプログラムいずれにも必要な方法論 Community Organizing を培うため、一体となって取り組んでいることも評価できる。</p> <p>グローバル化に対応した教育については、著名な外国人研究者を招聘して特別講義を実施したり、「大規模協同組合のガバナンス」という洋書の講読を行う授業で、海外の理論を読んで視野を広げる配慮をするなど積極的に取り組んでいるといえる。</p>
--

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A B C
<p>【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修論指導を軸にした講義内容の充実化を図っている。</li> <li>・目標を明確にしたために、履修、論文指導に明らかな効果が表れている。</li> </ul> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
②研究科(専攻)等として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることできる状態にしていますか。	はい いいえ
<p>【研究指導計画の明示方法】※箇条書きで記入(ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す(学位取得までのロードマップの明示等))。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①修論指導時に明確なロードマップを明示し、全員に配布した。</li> <li>②これまで遅れがちだった研究作業が比較的スムーズに進むようになった。</li> <li>③論文作成作業の明確化と時期区分を示すことによって、研究水準を上げる効果につながった。</li> </ul> <p>【根拠資料】※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい いいえ
<p>(～400字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学年別の研究指導を行い、効率的な成果があがるようにした。</li> <li>②研究水準をあげながら、学位論文の水準に移行させるための指導を3プログラム教員の共同検討、作業として実施している。</li> </ul> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	

3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・執行部（運営委員会）と作業部会でシラバスチェック等検証を行っている。 ・既定の学生評価アンケートに加えて独自のアンケート用紙を工夫する等努力している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・学生のアンケート結果等を参考にして、3プログラムの教授によって検証を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
<b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・成績評価の適切性については、教授会で成績評価基準について討論を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①組織的な教育成果の検証を定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
<b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・3プログラムの教授によって、それぞれ問題提起を行い、討論・検証を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
<b>【利用方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・教授会で学生の評価についての対応を検討している。当インスティテュートは発足したばかりなので、方法の確定までには時間を要する。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・インスティテュートが発足間もないので、方針面があるが、早急に評価と成果を対応させ、確定していく必要性に迫られている。
---

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートにおける修論指導のロードマップの配布や、それに基づいた指導の実施を通して、学生の論文の水準が向上したことは、評価できる。さらに、シラバスの検証において、執行部や作業部会での事前検証をした上で、授業改善アンケートと共に、独自のアンケートを実施している点も評価できる。
---

4 成果

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

<b>【学位授与方針】</b>	
<p>学問的知見を踏まえつつ、プロフェッショナルとして実際の公益に資する政策の形成・実施を担う人材を育成し、具体的な運動論や手法に関する科目を配置するとともに、実際に社会の最先端で活動する専門家と知的に交流する機会を作る。</p> <p>修士課程に2年以上在学し、36単位を修得し、かつ修士論文の審査に合格した者に学位を授与する。誰もが多様な働き方を通じて社会参加し自己実現可能な民主的会社とするためにNPO/NGOや社会的企業、協同組合、福祉事業団体、労働組合などに求められる社会的役割を認識し、解決すべき課題の発見、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・発信する能力、それらを実現・解決するための人的・組織的ネットワークを形成する技能、そしてその基盤となる高い志を育成することを目指す。</p>	
4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
①学生の学習成果を測定していますか。	A B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>・論文指導を強化し、科目履修においても連動して成果が上がるよう、学生のニーズに合わせて講義を行っている。これまでの大学院論文指導の経験と評価実績から判断して成果が上がっていると思われる。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
4.2 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。	
①学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい いいえ
<p><b>【学位論文審査基準の明示方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>①入学時のガイダンス、論文指導時にプリントを配布し、指導している。</p> <p>②論文発表時に論文審査の基準を明示している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <p>・特になし</p>	
②学位授与状況(学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等)を把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・まだ学位授与者がいないため、今後の課題である。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
③学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	A B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>併設されている研究交流センター、課題別研究所、連続講座への参加、等を通じて学位の水準を保ち、高める努力を行う。</p>	
④学生の就職・進学状況を組織的に把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・まだ修了者がいませんので、これからの課題になります。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートでは論文指導強化のために、学生のニーズに合わせた講義を実施していることは評価できる。学位論文審査基準については、ガイダンス、論文指導時にプリント配布により学生と共有した上で、論文発表時に再度確認していることも評価できる。

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】

本インスティテュートが目指す人材の育成には、幅広い知識が欠かせない。特に、いわゆる社会人入学に配慮し、社会科学の幅広い知識を得るため、それぞれの概論（入門講座）を専門基礎科目として配置する。

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。  はい  いいえ

(～200字程度まで) ※募集人員およびその充足状況をどのように捉えているかを記入。

本インスティテュートは一般公募と組織推薦の学生を運営委員会が審査決定する方式をとっているが、定員を正確に確保することの難しさがある(合格者から入学手続までに至らない場合等)。より正確な形で定員確保を達成する必要がある。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。  A  B  C

【検証体制および検証方法】 ※簡条書きで記入。

・入学説明会、面接試験、審査、運営委員会等を通じて正確な検証に近づけるようにしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、簡条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について簡条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートでは学生募集および入学者選抜の結果について、入学説明会、面接試験、審査、運営委員会等、さまざまな場面で検証していることは評価できる。

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。

①研究科（専攻）等として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。	A B C
（～400 字程度まで）※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。 外国人留学生は語学力の水準が低い場合が多く、語学力、学問水準を向上させるため日本人学生のサポートも含め、大学院の総力を当てて支援を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

**【この基準の大学評価】**

連帯社会インスティテュートには NPO プログラムに外国人留学生が在籍しているが、日本語学力の水準を認識した上で、日本の学生のサポートも含め、日本語学力、学習能力向上に向けて、研究科の総力をあげた取り組みをしている点は、評価できる。

7 内部質保証

**【2016 年 5 月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。	
①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。	はい いいえ
<b>【2015 年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】</b> ※箇条書きで記入。 ・正式な形では立ち上げていない。	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

**【この基準の大学評価】**

連帯社会インスティテュートでは、現在、質保証委員会等の内部質保証システムが存在しないので、適切な質保証活動に向けて、その整備が期待される。

**【大学評価総評】**

連帯社会インスティテュートは、2015 年度より開始されたにも関わらず、地域と連携した研究フィールドでのリサーチワークや、各分野の高度な専門知識をもつ外部講師による研修など、理念・目的に掲げる、政策構想力と実践力を兼ね備えた「連帯社会」を築く人材育成に向けたプログラムが、着実に実施できている点は、高く評価できる。

また、こうしたプログラムのもと、インスティテュートの募集人員に対し院生の確保ができていますので、社会において、インスティテュートの意義が十分に理解されているといえよう。

今年度、こうしたプログラムの実施を通して初めての学位が授与される予定であるが、インスティテュート初の学位論文の質が、理念・目的に応える水準となることを期待する。同時に、プログラム全体の検証も行われ、より高い

水準のプログラムへと改善されていくことを望む。